

令和4年1月 岩手県教育委員会定例会 会議録

- 1 開催日時
開会 令和4年1月17日(月)午後1時30分
閉会 令和4年1月17日(月)午後2時00分
- 2 開催場所
県庁10階 教育委員室
- 3 教育長及び出席委員
佐藤 博 教育長
新妻 二男 委員
島山 将樹 委員
宇部 容子 委員
小野寺 明美 委員
泉 悟 委員
- 4 説明等のため出席した職員
佐藤教育局長、高橋教育次長兼学校教育室長
渡辺教育企画室長兼教育企画推進監、中川学校教育企画監、三浦義務教育課長、清川保健体育課総括課長
教育企画室：菊池主任主査、新田主事(記録)
- 5 会議の概要
 - 第1 会期決定の件
本日一日と決定
 - 第2 事務報告1 令和4年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について(学校教育室)
別添事務報告により説明
 - 第3 事務報告2 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について(保健体育課)
別添事務報告により説明

小野寺委員：この調査結果は、各小中学校にそれぞれの学校ごとの調査結果が報告されているということなんでしょうか。

清川保健体育課総括課長：全国の状況を分析し、学校ごとの結果が反映されたものが送られております。

小野寺委員：分かりました。おそらく地域ごとの特色というものがあると思います。地域ごとの強みや弱みについては、分かっていた方が今後の子どもたちの体力づくりのための取組の参考になるのではないかと思ったので、この質問をさせていただきました。それからもう1点です。幼児期からの取組が大変重要だということで、岩手のスポーツ選手も世界で活躍する方がたくさん出てきて、保護者としても、自分の子どもはどのような運動能力に長けているのかといったことや、どのようなことが大事なのかといったことにとっても関心があると思っています。ぜひこの結果を、幼児期からの取組が大事だということで、就学前の子どもを持つ保護者の皆さんにも伝えていただければと思います。

宇部委員：感想と意見になります。体力は今後活動を行っていく上でも要になるものですので、これまでも県として色々と案を出していただき、立ち幅跳びの数値が低かったときも、それに応じた運動の例を紹介していただいたりして、工夫した取組をしていただいていると思います。今回の調査結果で一番の成果だと思っているのが、「運動やスポーツをすることは好きですか」という問いに対して、「好き」や「やや好き」と回答した児童生徒が多かったという点でして、岩手の運動への取組の成果だと感じております。健康というのは、生涯学習の点からも大事なことですけれども、この素地

の上に、今年度の中高生の全国の活躍もあったのではないかと感じているところです。持久力などに課題はありますけれども、これからはICT機器も使いながらですとか、幼児期からの運動も推奨していくというような方針も出されておりますので、県から色々な例を挙げさせていただきながら継続して実践していくことで、生涯を通じての成果につながっていくのではないかと感じております。また、新型コロナウイルス感染症への対策という観点からも推奨されていることでもありますので、習慣となることを期待しております。ぜひよろしくお願いいたします。

清川保健体育課総括課長：御指摘いただいたとおり、運動好きの子どもを増やすというのは、大変重要なことだと考えておまして、運動が好きで嫌いな子、あるいは運動が得意な子と苦手な子というように二極化している部分がありまして、その解消というのが大きな課題となろうかと考えております。授業や運動遊びの中で、「苦手だけど好き」ですとか、「苦手だけどやってみたい」というように感じる児童生徒を増やしていくことがまずは大事だと考えて取り組んで参りたいと思います。

泉委員：コロナ禍で運動量が減り、運動不足になりがち傾向がありまして、免疫力の低下など健康二次被害あるいはその予防ということが現在取り上げられております。そのような中で、去年はこの調査は実施出来なかったが、今年度の経過として体力等が全国でも上位の方になっているということで、これは現場の先生方などの努力の結果なのではないかと思っております。資料を拝見させていただきました。また、先ほど宇部委員がお話したように、運動が好きだという児童生徒が多い点についてですけれども、これは大変素晴らしいことだと私も感じております。苦手な子どもが苦手であっても馬鹿にされずに、みんなで和気あいあいと楽しくできるというような観点で、現場の方でも体育の授業あるいは部活動での指導をお願いしたいですし、さらにそれが生涯にわたってスポーツを楽しむみたいと思う子どもたちが一人でも多く増えることにつながっていくとすればと考えておりますので、すごく明るい結果につながっていくような資料だと感じながら拝見させていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

清川保健体育課総括課長：生涯にわたってスポーツや運動に親しむ習慣というのは、幼児期から小中学生のうちに培われるものであると考えております。今回、東京オリンピック・パラリンピックによって、「観ること」や「支えること」というスポーツとの係わり方が非常にクローズアップされ、大事なことであるということを確認いたしました。体力だけではなく、「観る」や「支える」というような生涯における係わり方についても、しっかり取り組んで参りたいと考えております。

新妻委員：初歩的な質問で恐縮なのですが、20mシャトルランというのはどのような運動能力テストなのでしょうか。

清川保健体育課総括課長：持久力を調査するもので、20m間隔で端と端にラインがありまして、そこを往復するのですが、音の合図によって、最初の合図で端のラインからスタートし、次の合図までもう片方のラインに到達する回数を測定するものです。合図と合図の間隔は次第に短くなっていきますので、徐々についていけなくなり、2回連続で到達できなければ脱落、ということで、往復できた回数が多ければ多いほど持久力があるということになります。高校生ともなれば、100回を超える生徒もいます。

新妻委員：比較的軽めの種目なのかと受け止めていたのですが、かなり体力を使いそうですね。

清川保健体育課総括課長：頑張れば頑張るほど続きますので、後半はかなりハイペースで走らなければならないということになります。

新妻委員：昔は筋力系の種目が多い印象なので、我々の時代と比べると内容が変わったものが多いという印象です。それから、委員の皆さんからもお話があったように、「スポーツが嫌い」と感じる子どもたちがいるということが最大の課題であると思います。「関心がある」や「好きだ」という思いを前提に持ってもらうことが一番だと思いますので、その点で言えば、岩手の子どもたちは将来的な伸び率があるのではないかと私は思います。また、2点ほど質問させていただきたいのですが、「体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツを合計で1日おおよそどのぐらいの時間していますか」という質問があって、これに対してお伺いしたいのですが、「体育の授業以外」には部活動は含まれるのですか。

清川保健体育課総括課長：含んでおります。

新妻委員：それを踏まえて教えていただきたいのですが、小学生と中学生を比較すると、スポーツ系の部活動をしているのは、中学生の方が比較的多いわけですがけれども、その割には小学生と中学生で差が無いと感じるのですが、体育の授業以外で、小学生はどのような運動やスポーツに取り組んで

いるのでしょうか。中学生は部活動があるので、「1週間の総運動時間が60分未満と回答した割合」がある程度数値が低くなっているということが想定されますけれども、小学生の方も結構少ないので、中身を少し分析すると今後こういうところを後押ししてあげれば良いのかなというようなことが分かるのではと思います。それから、やはり男女差があるということですが、この差は何から生まれているのかということについても、今後検討していただければと思います。実は、子どもたちの学力調査の一環と称する生活調査の中で、メディアと接触する時間が非常に長引いてきているということが新型コロナウイルス感染症の影響もあり大きく話題になっておりましたので、例えばこれがどのように反映されているのかというあたりも気になるころではあります。分析とまではいかななくても、何の要因が絡んでいるのかという推測というくらいで構わないと思いますので、そのあたりの対応についてもよろしくお願ひしたいと思います。

清川保健体育課総括課長：まず、小学生の取組時間については、例えばご家庭で親御さんが一緒にスポーツをしたりですとか、学校であれば、業間休みのマラソンですとか始業時間前の取組など、運動時間を少しでも増やそうと学校ごとに取り組んでおります。男女差につきましては、全国の分析として、やはり肥満傾向が進んでおりますので、それに伴い運動量も少ない傾向があること、そして、体力合計点でも低いこと、というような分析をしております。併せて、メディアとの接触（スクリーンタイム）につきましても、本県は増加傾向にあります。スクリーンタイムが増えるということは、その分運動時間が減るということにつながると考えられますので、運動時間そのもの、それから、体力の合計点といったところにも影響があるのではないかと考えております。

新妻委員：岩手の子どもたちは肥満傾向が強いということが以前に報告されていたと思いますが、その割には持久走が良い結果になっておりましたので、意外だなと思ったところでした。

清川保健体育課総括課長：そのあたりについてはしっかりと分析していきたいと考えているところですが、やはり二極化が進んでいるということだと思います。部活動に積極的に取り組む者と運動が苦手な者あるいは肥満傾向にある者とで平均して記録を録ると全国の上位なのですが、二極化がある中で上位層が頑張っているという実態もあろうかと考えております。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。